

日本史 出題の意図

問題Ⅰ

近代日本の出発点となった明治新政府の成立とその性格について、理解できているかを問うものである。

問1 ペリー来航を起点とした開国・開港による幕末社会の変化について理解しているかを問うものである。

問2 王政復古の大号令が、ペリー来航後の国難に対処するため、天皇親政の下で公家や武家が広く政治参加する体制の樹立をめざしたものであったことを理解しているかを問うものである。

問3 新政府が掲げた公議輿論政治の制度化とその変遷について理解しているかを問うものである。

問4 五箇条の誓文が、天皇が群臣を率いて天地の神々に誓うという形で発表されたものであったことを理解しているかを問うものである。

問5 天皇の人間宣言が、連合国の民主化政策に適応させて天皇制の維持をはかるため、天皇の神性を否定するものであったことを理解しているかを問うものである。

問題Ⅱ

鎌倉・室町・江戸幕府および戦時下の「奉公」をめぐる諸事象、および院政期の政治、文化について、理解できているかを問うものである。

問1 足利義昭と織田信長との関係について理解できているかを問うものである。

問2 戦時下の学徒動員・勤労働員について理解できているかを問うものである。

問3 鎌倉幕府の将軍と御家人との関係について理解できているかを問うものである。

問4 天明の打ち壊しにともなう江戸幕府の都市政策について理解できているかを問うもの

のである。

問5 荘園整理令に関する史料の読解能力を問うものである。

問6 史料図版から「院」という用語を読み取り、白河、鳥羽、後白河に代表される院政の政治的、文化的特徴に関する知識を引き出せるかを問うものである。

問題Ⅲ

古代の君主制や関連する事項について理解できているかを問うものである。

問1 縄文時代～弥生時代の変化について理解できているかを問うものである。

問2 本居宣長の『古事記伝』について理解できているかを問うものである。

問3 君主の称号として、「天皇」号以前の「大王」号、地方行政機構の表記として、「郡」以前の「評」について理解できているかを問うものである。

問4 阿衡事件について理解できているかを問うものである。

問5 桓武天皇の都城造営事業について理解できているかを問うものである。

問6 いわゆる延喜荘園整理令について理解できているかを問うものである。